The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Rue X構文 : 現代フランス語における前置詞を取らない場所名詞について : on est arrivé rue Vaugelas
Author(s)	春木, 仁孝
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2025, 2024, p. 11-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102273
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Rue X 構文：現代フランス語における前置詞を取らない場所名詞について
on est arrivé rue Vaugelas

春木仁孝

1. はじめに

現代フランス語においては、emballage cadeau「プレゼント用包装」のように後置名詞が前置詞を取らずに先行の名詞を修飾する現象を初めとして、名詞が名詞本来の機能を超えた働きをする様々な現象が存在する。

筆者は春木(2016)などにおいて、*côté* nourriture「食べ物については」、*question* argent「お金に関しては」、des cheveux courts *façon* Jean Seberg「ジーン・セバーグのような短かい髪」、ses petites godasses *genre* tennis「テニスシューズのような彼女の小さな靴」、si on part *genre* demain「もし明日にでも出発すれば」など、名詞が文法化を経て前置詞的、さらには副詞的、ディスコースマーカー的な働きをする現象について詳しく考察した。また春木(2023)においては la moquette *couleur* pomme blette「熟れすぎたリンゴのような色の絨毯」のように色彩のニュアンスを導入する couleur について考察を加えた。以上の現象においてはいずれも前置詞の存在が想定されるところに、実際には前置詞と冠詞が用いられずに表現が成立するという特徴があった。

以上の現象とは性格を異にするが、現代フランス語には rue, place, boulevard などいくつかの場所を表わす名詞に関して、以下のようにやはり前置詞と冠詞が省略されたように見える表現形式が存在している。

(1) Il est arrivé *porte de la Chapelle*, à Paris.「彼はパリのシャペル門に着いた」

(2) Elle est arrivée *gare du Nord*. 「彼女は北駅に着いた」

(3) Lorsqu'elle sortit *quai Voltaire*, la nuit était presque tombée.

(Musso, *Un appartement à Paris*. 2017 ： 201) [1]

「彼女がヴォルテール河岸に出たとき、ほぼ夜になっていた」

(4) Une librairie-papeterie *boulevard de Clichy* restait ouverte jusqu'à une heure du matin. (Modiano, *Dans le café de la jeunesse perdue*. 2017：99)

「クリシー大通りにある文房具と書籍を売っている店は午前 1 時まで開いていた」

(5) *Boulevard Saint-Michel*, des garçons et des filles se promenaient en bandes, (...)

(Beauvoir, *Mémoires d'une jeune fille rangée*.：174)

「サン・ミッシェル大通りでは男の子や女の子が連れだって散歩していた」

(6) Pour acheter ses Gauloises bleues, mon paternel m'envoyait au Khédive qui faisait tabac, *place Gambetta*：(...). （Khédive はカフェの名前）

(Mordillat, *Rue des Rigoles*. 2002 :190)

---

[1] 例文の引用文献については紙幅の関係で詳細は省略する。原則としてポケット版を用いている。出典がない例文はネットなどで採録したものであり、適宜、不必要な部分は省略をしている。

「青箱のゴーロワーズを買うために親父は私をタバコも売っているガンベッタ広場にあるカフェのケディヴに行かせたものだった」

(1)(2)であれば il est arrivé *à la* porte de la Chapelle, elle est arrivée *à la* gare du Nord のように前置詞 à と場所名詞の前には定冠詞を用いて表現することもできる。(3)であれば elle sortit *sur le* quai Voltaire のように前置詞 sur と定冠詞を用いて表現をすることができる。arriver も sortir も移動を表わす自動詞であり、移動先を表示するには通常は à, sur, dans などの前置詞を用いる。(4)のような場合は店や住居など事物の存在点、(5)の場合は発話の枠組みとして事態の生起する場所を表わしており *sur le* boulevard de Clichy や sur le boulevard Saint-Michel のようにも表わすことができる。(6)は他動詞構文の場所補語であり sur la place Gambette のように sur を用いて表現することもできる。

本稿では先行研究を踏まえつつ、このような現象についてより詳細な考察を行なうとともに、これまでの研究ではあまり触れられてこなかった問題についても考えたい。

2. 先行研究と現象の確認

この現象については中尾(1999)が論じており、先行研究の Palm(1989)[2]、Barbéris(1997)についても引用や紹介がなされている。最初に中尾(1999)などを参考にこの表現形式に関して幾つかの確認を行なっておく。以下この表現形式を Barbéris(1997)および中尾(1999)にならって rue X 形式、前置詞と冠詞がある場合を dans la rue X 形式と呼ぶ。

rue X 形式は(1)-(3)のように移動先を表わす場合、(4)のように存在場所を表わす場合、(5)のように事態の生起する場所をトピック的に表わす場合、(6)のように他動詞構文の場所補語として用いられる場合、さらに以下の(7)のように移動動詞から派生した名詞の持つ「移動」の意味に対応する移動先（もしくは通過点）を表わす場合がある。

(7) Sa femme est morte, pendant la décennie noire, juste avant *l'arrivée d'Abdallah rue Hamani*.（舞台はアルジェリア） (Adini, *Nos richesses*. 2017 :19)

「彼の妻は暗黒の 10 年時代に、アブダラがハマニ通りに越してくる直前に亡くなった」

次に、rue X 形式で用いられる名詞には制限がある。中尾氏が rue X 形式での使用を確認したとして挙げているのは以下の名詞である。

(8) avenue, boulevard, cour, gare, impasse, parc, place, porte, quai, rue[3]

さらに中尾氏によれば Palm(1989)には allée, carrefour, passage, promenade, square も挙げられている。筆者も(8)の名詞以外に square と passage の例を採録している。square は parc の類語であり、passage はアーケードのある rue である。中尾氏は(8)に挙げた名詞を gare, parc をのぞけば住所に用いられる名詞であると特徴付けている。確かに筆者が採録し

[2] Palm(1989)は未見であり、この文献についての情報は中尾(1999)による。

[3] 中尾氏は今後、類推によって rue X 形式で用いられる名詞が増える可能性があり、(8)と Palm が挙げている名詞が作るリストは開かれたリストであるとしている。このリストにまだ漏れている語が存在する可能性はあるが、今のところあらたな語が増える兆候は見られず、筆者はこのリストはほぼ閉じられたものと考えている。Barbéris (1997)が指摘している guichet, voie, quai, chapitre, page などが rue X 形式のように用いられる現象があるが、これらについては共起する動詞（構文）や文脈が限られており、本稿で扱っている問題と何らかの関連はあっても筆者は別の問題と考える。

た square と passage も住所に用いられる名詞である。

これに対して、rue X 形式に用いられることが「ほとんど不可能」な場所名詞として中尾氏は pont[4], chaussée, quartier, hôpital, musée, île, autoroute を挙げている。

移動先を表わす rue X と共に用いられる動詞については特に制限はないようであるが、筆者が採録した例文に出現する動詞を中心に挙げると aller, arriver, sortir, s'engager, déboucher, revenir, emménager, être de retour, descendre などがある。

中尾氏は場所の移動が問題になっているような文脈では dans la rue X の形式が用いられることが多く、特に s'engager, s'avancer, aboutir, arriver などがそのような文脈で用いられている場合には dans la rue X と相性が良いとしている。これは移動先が発話の焦点になっている場合は dans la rue X 形式が用いられることが多いということだろう。

中尾氏によれば Palm は「courir や rouler のように到達点を含まない移動を示す場合は dans la rue X の方が補語として選ばれ易いと指摘している」（中尾：41）とのことである。中尾氏はそう述べた箇所で次の例を Palm から引用している。

(9) ils roulaient vers la rue de Berri. (Palm：63, 中尾：41)

ただ rue X 形式に対応する dans la rue X 形式の前置詞として想定されるのは à, dans, sur などであって、移動先を表わすのでもなくまた存在や事態の生起の場所を表わすのでもない vers はもともと rue X 形式は取れない。つまり(9)の意味はもともと rue X 形式では表わせないので rue X 形式との比較で Palm がこの例を挙げている意図がよく分からない[5]。

courir や rouler, circuler などが表わす到達点を含まない移動も一つの事態であり、Palm の言に拘わらずそのような動詞が rue X 形式を取る例は数多く見つかる。

(10) Dans un autre cauchemar, il *courait rue Amherst*, en direction de l'arrêt de tramway de la rue Cherrier.（舞台はモントリオール）

「(…) 彼はアマスト通りをシェリエ通りの路面電車の駅の方向に走っていた」

(11) Il *roulait rue Moyenne* avec plus de deux grammes d'alcool dans le sang.

「彼は血中に 2 グラム以上のアルコールを含む状態で M 通りを車で走っていた」

(12) (...) il *avait rôdé rue Saint-Benoît* dans les jours qui suivirent (...)

(Modiano, *Dans le café de la jeunesse perdue.* 2017：27)

「そのあとの日々、彼はサンブノワ通りを徘徊したのだった」

(13) Le baron Haussmann a fait un cauchemar：il *se promenait avenue Daumesnil* entre le boulevard Soult et la rue du colonel Oudot (...).

「(...) 彼はスルト大通りとウド連隊長通りの間のドメニル大通りを散歩していた」

(14) J'ai éprouvé une drôle de sensation *en marchant* le matin *square Cambronne*, puisque c'était toujours la nuit que nous allions chez Guy de Vere.

---

4 筆者は pont X を 2 例採録している。例(20)を参照されたい。

5 本稿では rue X 形式に用いられる場所名詞だけについて dans la rue X 形式を対比させている。Palm（および中尾氏）は dans la rue X 形式を前置詞を取るすべての場所名詞に対応させているように思われる。

(Modiano, *Dans le café de la jeunesse perdue*.2017：116)

「朝にカンブロンヌ公園を歩いていて奇妙な感じがした、というのも（…）」

上記の例や例(5)における courir, rouler, rôder, marcher, se promener などの動詞はいずれも以下の例の dîner と同様にある場所で起こる一つの事態を表わしている。

(15) (...) nous *avons dîné* avec Jeannette Gaul *rue d'Argentine*, dans le restaurant délabré à côté de mon hôtel.

(Modiano, *Dans le café de la jeunesse perdue.* 2017：122)

「私たちはジャネット・ゴルと一緒にアルゼンチン通りで私のホテルの横にあるみすぼらしいレストランで夕食をとった」

到達点を含まない移動を表わす動詞が rue X 形式を取る場合は、移動を一つの事態として表わしているので、一部は大過去、そして多くの場合は半過去で用いられている。ただし courir については以下のような複合過去の例が見つかる。

(16) A toute vitesse, il *a couru rue de la Fontaine* où il a retrouvé Eléonore qui l'attendait, anxieuse.

「大急ぎで彼は la F 通りへと駆けつけ、心配して彼を待っていた E と合流した」

(17) C'est sans surprise qu'il *a couru rue Adrien Dubouché* pour goûter aux plats de chez Nomade.（chez Nomade「ノマッド亭」はレストランの名前）

「彼が N の料理を味わうために AD 通りへと駆けつけたのはなんの不思議もない」

以上の courir は(10)の courir「走る」とは違い、「ある場所へ駆けつける」という完了的な意味で用いられている。つまり事態の生起場所としてではなく、移動先として rue X 形式を取っている。rue は一定の長さを持っているが、(16)では rue de la Fontaine は Eléonore が待っているアパルトマンを、(17)では rue Adrien Dubouché は「ノマッド亭」というレストランをメトニミー的に指示していて、通り全体を問題としているのではない。

3. 問題点

3. 1. côté タイプ、façon タイプとの比較

冒頭でも触れたようにフランス語には前置詞と定冠詞が省略されて、côté や façon などの名詞が前置詞の働きをしている表現が存在しており、先行研究においてもそれらの表現と rue X形式との違いについての言及がある。詳しくは春木(2016)を見ていただきたいが、côté, niveau, question などは「～については」と命題の有効性の領域を限定する働きがあり、一方 façon, genre, style などは「～のような、～式の、～的な」と類似性を通して対象の質的限定を行なう働きがある。いずれのタイプも名詞が文法化によって機能語化したものである。元来は du côté de la nourriture「食べ物については」のように前置詞句だった表現が、前置詞句の中心となる名詞の前後の前置詞と定冠詞が省略されて前置詞句の中心的名詞そのものが前置詞の機能を果たすようになったものと考えられる。question のように対応する前置詞句が特定できないが類似語の文法化の流れの中にいわば取り込まれて同

じように機能語化したものもあるが、概ね元の前置詞句と今も競合的に用いられている。

rue X 形式と dans la rue X 形式も競合的に用いられているところは côté タイプや façon タイプと同じであるが、既に指摘されているように根本的な違いがある[6]。それは rue X が全体として固有名詞的に地名を指示している点である。niveau nourriture は「食べ物 nourriture」「については niveau」と二つの部分に分けることができる。ここでは niveau は文法化を経て前置詞として用いられており、nourriture は前置詞 niveau の支配を受ける被制辞である。一方、rue X 形式の rue の部分に入る名詞は一定の形をした場所を表わす名詞として機能しており、その名詞が前置詞的な働きをしているわけではないし、X は rue を特定化しており rue の被制辞ではない。

つまり統語的に rue X 形式と côté タイプや façon タイプは本質的に異なっている。

3．2．rue X 形式とメトニミー

意味的に見た場合、façon タイプの前置詞的な用法[7]や côté タイプの用法については、それらが競合する本来の前置詞と冠詞を用いた表現との間に意味上の違いは存在しない。一方、rue X 形式と dans la rue X 形式も場所そのものを指す場合は意味的に等価である。しかし中尾(1999)が指摘して検討しているように rue X 形式はその場所に存在する人や物（住居、レストラン、会社などの組織）をメトニミー的に指示することができる。それに対して dans la rue X 形式ではメトニミー的な用法は難しい[8]。ここまでに挙げた rue X 形式の例を見ると(7)(16)は住居を、(15) (17)はレストランをメトニミー的に指示している。

問題は dans la rue X 形式ではメトニミー的な用法が可能ではなく、rue X 形式はメトニミー的用法が可能であるのはなぜかという点である。中尾(1999)はこの点に関して、rue X 形式に用いられる名詞は主として住所に用いられる名詞であるが[9]、「住所の地名はメトニミーに転じやすいので、rue X はメトニミーに適した形式である」（中尾：47）と指摘している。しかし、「住所の地名はメトニミーに転じやすい」のならば rue X 形式で用いられる同じ「住所の地名」が dans la rue X 形式で用いられてもメトニミー的な意味を表わせることになるのではないかと思われる。この点に関して中尾氏は、rue X 形式は dans la rue X 形式よりも軽い形式であり、「重い形式の dans la rue X をあえて誰もメトニミーに使おうとしないのは理に叶っているように考えられる」（中尾：47）と述べている。残念ながら中尾氏のこの説明は直感的、主観的であって論理的に成立しているとは言いがたい。dans la rue X 形式がメトニミー的に用いられないのは重い形式であるからということではなく、前

---

6 中尾(1999)では côté タイプと rue X 形式について「動詞補語または文補語として機能する」場合は共に c'est...que によって焦点化できる点では、「統辞的には主文に従属した前置詞句として等価に機能するという共通点をもつことがわかる」（中尾：43）と述べている。中尾(1999)も例(4)(7)のように名詞に同格的に用いられている場合は焦点化のテストの対象とはしていないのだが、同格的な用法も含めて、rue X 形式も côté タイプも façon タイプも c'est...que によって焦点化できない例が多いように思われる。焦点化テストをする意味およびその有効性については判断を保留したい。

7 つまり genre や style の副詞的な用法やディスコースマーカー的な用法はのぞく。

8 Palm、中尾(1999)が指摘しているように le Quai d'Orsay「外務省」のように元々はメトニミーであった意味が固有名詞化している場合は dans la rue X 形式でも用いることができる。

9 中尾氏は gare や parc も「日常無冠詞で看板に表示されている」こともあり、「住所の名詞からの類推が働いて」rue X 形式で用いられていると考えている。（中尾：46）

置詞と冠詞があることで、移動先など一定の意味役割を持った具体的な場所そのものを指示することになるからである。

(18) Il n'y a personne *rue du Mont-Thabor*. L'appartement est à louer.

(Colette. *Chambre d'hôtel suivi de La Lune de pluie*. 1990 :61)

「モン・タボール通りのアパルトマンには誰もいない。借り手募集中である」

(19) Il n'y a personne dans la rue du Mont-Thabor.

(18)の rue du Mont-Thabor は文脈からアパルトマンを指示しているが、dans la rue X 形式である(19)は「モン・タボール通りには誰もいない」という意味にしか解釈できない。

続いて中尾氏は、なぜ rue X 形式はメトニミー的用法だけでなく、場所の指示も可能なのだろうかと議論を続け、それは「Rue X が文脈に応じた対象を柔軟に指示できるからである」（中尾：47）と説明している。確かに前置詞と冠詞がない rue X 形式の方が統語的に抽象性が高いので指示に関して柔軟であるというのは納得できる。しかし、rue X 形式が dans la rue X 形式の前置詞と冠詞が省略されてできた形式であると考えると、rue X 形式が本来、場所を指示できるのは当然のことであり、むしろどうして rue X 形式が場所の指示からメトニミー的な用法に守備範囲を拡大したのかという方向で議論すべきである。それに対する答えとしては、前置詞と冠詞がないことで rue X 形式はその指示において抽象性が高くなり、そのことによりメトニミー的な用法が発展してきたと考えられる。

4. rue X：場所指示とメトニミー的用法

ここでは rue X 形式がメトニミー的に用いられることについてもう少し詳しく検討してみたい。先ず rueX 形式で用いられる名詞のすべてがメトニミー的に用いられるかというと、そうではないようである。多くの例を挙げていると思われる Palm(1989)を見ていないので断定はできないが、筆者の採録例などを検討するかぎり、メトニミー的に用いられているのは、rue, impasse, boulevard, avenue などに限られると思われる[10]。いずれも番号を伴なって住居表示に用いられる名詞である。メトニミー的な用法はその場所に存在する住居、レストラン、店、会社などの組織を指示するので、これは当然といえば当然である

rue X 形式で用いられるその他の名詞にメトニミー的な用法があるとすると、それは parc X, square X, pont X などの形で X 公園のそば、X 橋のたもとというような地理的隣接性という意味でのメトニミーになると考えられる[11]。以下はかなり稀な pont X の例である。

(20) Le théâtre flottant l'Ile'O est arrivé *pont Gallieni* le 5 octobre 2022.

「浮かぶ劇場 Ile'O は 2022 年 10 月 5 日にガリエニ橋（のたもと）に着いた」

この文はネットの新聞記事に付けられた写真のキャプションであるが、記事本文では以下

---

[10] 実例は採録していないが、住所に用いられる quai, place, passage も含まれる可能性がある。

[11] たとえば X 公園でイベントをしていて、臨時に屋台などを出しているとかテントで何か対面的なサービスをしているような状況で、そのことが文脈的・状況的に分明な場合は rue X 形式で住居や店を指示する場合と同様のメトニミー用法が成立すると考えられるが、実例を採録するには至っていない。

の様に dans la rue X 形式で橋のそばであることが説明されている[12]。

(21) Le théâtre flottant l'Ile'O (...) est arrivé ce mercredi 5 octobre *au pied du pont Gallieni, berge Von Suttner.* 「ガリエニ橋のたもと、Von Suttner 堤に着いた」

さて、rue X 形式のメトニミー的用法に話を戻そう。実例を検討していると場所自体を指示しているのかメトニミー的用法なのか判断しがたい曖昧な例が意外に多いことに気付く。

(22) Voilà près d'un an et demie que nous avons emménagé *impasse des Colibris*.

(V. Grimaldi, *Quand nos souvenirs viendront danser*. 2019：36)

「私たちがハチドリ袋小路に引っ越してきてからもう 1 年半近くたった」

(23) Une génération s'est écoulée depuis notre arrivée *imapasse des Colibris.*

(V. Grimaldi, *Quand nos souvenirs viendront danser*. 2019：168)

「私たちがハチドリ袋小路に引っ越してきてから一世代の年月がたった」

上記の 2 例においては「引っ越してきた」という言葉からも分かるように、話し手達が住んでいる住居をメトニミー的に指示していると先ず考えられるが、しかし同時に一つのコミュニティーの存在する袋小路全体を指示していると考えることもできる[13]。その場合も単に場所を指示しているだけではなく、文脈からそこに住む住民達のコミュニティーをメトニミー的に指示していると考えられる。つまり rue X 形式のメトニミー的用法には、その rue X に住む人々、コミュニティーを広く指示するタイプもあると考えられる。

また移動先の場所自体を指示する場合も、rue X の特定の場所を指示する場合と、(rue X 以外の場所と比較して）rue X の任意の場所、もしくは地域としての rue X（全体）を指示する場合とが存在する。以下の例が任意の場所を指示する例である。

(24) Le taxi s'est engagé *rue de la Chaussée-d'Antin* et j'ai vu, tout au fond, la masse noire de l'église de la Trinité, (...)

(Modiano, *Dans le café de la jeunesse perdue*. 2017：74)

「タクシーはラ・ショセ＝ダンタン通りに入り、私にはずっと奥にトリニテ教会の黒いシルエットが見えた」

この例ではどこか他の通りからラ・ショセ＝ダンタン通りに入ったことを表わしており、トリニテ教会が奥に見えるという制限はあるものの、通りのどこかを特定して指示しているのではない。s'engager や déboucher などがこのタイプで用いられる典型的な動詞であるが、atteindre の意味で用いられている arriver にもこの種の用例がある。

rue X 形式の指示対象が場所自体なのかメトニミー的なものなのかが曖昧な例をさらに見てみよう。

(25) Je levais les enfants, je les habillais, (...) , je les emmenais à l'école, je buvais un café *rue Soufflot* en feuilletant le journal, (...), je retournais les chercher *rue Cujas*, (...). (Gavalda, *fendre l'armure*. 2017：52)

---

[12] au pied du pont Gallieni の後に berge Von Suttner と同格的に berge X が付いていることにも注意。

[13] 小説ではこの袋小路に住む人々に起きることや、その人達の間で起きることなどが描かれている。

「私は子供達を起こし、服を着せ、(...)、学校に連れて行き、スフロ通りで新聞を読みながらコーヒーを飲み、(...)、子供達をキュジャ（ス）通りに迎えに行き(...)」

この例では rue Cujas は学校のことを指示しているのは明らかだが、rue Soufflot はこれだけでは行きつけの特定のカフェを指示しているのか、通りにある任意のカフェを指しているのかは曖昧である。先行文脈にもその通りの特定のカフェのことは出てこない。この例は半過去の使用から分かるようにある時期の毎日の行動を述べているので、行きつけのカフェを指示している可能性が高いが日によってスフロ通りの違うカフェに入るのかも知れない。いずれにしろ曖昧なままでも理解に問題はない。この種の例は意外と多く存在しており、指示対象が曖昧なままでも抵抗なく受容できてしまう。

rue X 形式の例の中には rue X の後に前置詞を伴なってより具体的な場所の説明が続くものも存在する。((15)は再録なので訳は省略する)

(15) (...) nous avons dîné avec Jeannette Gaul *rue d'Argentine*, *dans le restaurant délabré à côté de mon hôtel*.

(26) Suzanne travaillait *avenue de l'Opéra*, *dans une maison très chic* où elle tenait le poste de standardiste. (G.Mordillat, *Rue des Rigoles*. 2002 :153)

「シュザンヌはオペラ大通りのとても素敵なお店で電話交換手の仕事をしていた」

いずれの例においても、dans 以下の説明が続くことで rue X の部分は単にレストランやお店のある通り、つまり地域を特定しているだけと解釈できる。ただ、dans 以下のより具体的な場所の説明がない場合は、rue d'Argentine はレストランを、avenue de l'Opéra はなんらかの店をメトニミー的に指示していると解釈すべきであろうか。rue d'Argentine はこの話の中では何度も出てきており既知の通りである。一方、avenue de l'Opéra はよく知られた通りであり一定のイメージを喚起する。このような場合はむしろ地域としての場所自体を指示していると解釈すべきであるように考えられる。例(27)のように rue X の後にカフェとバーの 2 箇所が具体的な場所として示されている場合は、rue Saint-Benoît は明らかに場所としての通り、一つの地域を指示しているだけである。

(27) Il le connaissait de manière superficielle, pour l'avoir souvent croisé *rue Saint-Benoît* à La Malène et au bar du Montana (...). (La Malène はカフェの名前) (Modiano, *Dans le café de la jeunesse perdue*. 2017 : 25)

「彼はその人のことは、サンブノワ通りのラ・マレーヌとモンタナバーでよく行き会ったことがあったものの、顔見知り程度にしか知らなかった」

ついでながら以下の例(28)では前置詞句と rue X の位置が逆であるが、これは(4)と同じく名詞に後続して存在場所を表わす rue X になる。

(28) Déjeuner *dans un petit restaurant rue des Canettes*. Il y avait Soupault, Amrouche, Roblès, Aury, (...). (Adini, *Nos richesses*. 2017 :114)

「カネット通りの小さなレストランでランチ。S と A, R, A (...) がいた」

5. rue X 形式の成立要因

Barbéris(1997)は rue X の例として動詞 habiter「住む」の以下の例を挙げている。

(29) Louis habite *rue de l'Ancien Courrier*.「ルイは A.C.通りに住んでいる」

habiter は自動詞としては前置詞 à や dans を取る。(29)も Louis habite *dans la rue de l'Ancien Courrier*.と言うこともできるが、日常語においては基本的には(29)のように言う。一見すると rue X 形式と dans la rue X 形式の対立のように見えるが、habiter には他動詞用法もあり、以下のように実態はやや複雑である[14]。

(30) J'habite *33 rue de Zurich* à Strasbourg.[15]

「私はストラスブールのチューリッヒ通り 33 号に住んでいる」

(31) J'habite *au 33 rue de Zurich* à Strasbourg.

(32) J'habite *la rue de Zurich* à Strasbourg.

まず(30)のように rue X の前に番地の数字を入れることができる。番地の前に前置詞を用いる場合は定冠詞を取り(31)のようになる。さらに番地がない場合、(32)のように定冠詞を伴なうこともできる。しかし最も頻度が高いのは(29)のタイプの構文である。rue X 形式が現在のように発展した理由はいくつか考えることができるが、その一つに(29)のような habiter の構文の影響があるのではないだろうか。habiter はまさに住所を述べる基本的な動詞であり、habiter rue X 構文は頻度も高い。そもそも(29)のような発話は habiter の他動詞用法というよりも rue X 形式と同じタイプの構文とネイティヴには感じられているのではないだろうか。Barbéris(1997)が rue X の例として(29)を挙げているのも、ネイティヴとしてそのような感覚があるからではないかと推察される。

habiter 構文や rue X 形式で定冠詞が落ちるのは、既に指摘されているように住居表示のパネルに rue Vaugelas のように無冠詞の形で書かれていること、郵便物その他に住所を書く場合も冠詞をつけないことなどから、日常的に冠詞のない形を見慣れていること、さらに意味的には rue X は全体として固有名詞と見なすことができることから説明できる。

既に述べたように場所補語として、移動先や存在場所、事態の生起する場所というのは起点に対して無標である。住所に使われる名詞が指示する場所というのは、そこに人が住み、カフェやレストラン、あるいはお店があり、会社その他の組織があるので、移動先や存在場所、事態の生起する場所として用いられることが多く、そのような場所として認識されやすい。そこからそれらの名詞の前の前置詞の役割が言わば軽減され、意味的に余剰が生み出され、言語の経済性から前置詞が省略されるようになったものと考えられる[16]。

なお、例(5)のように発話の枠組み的に rue X が発話の頭にある場合は、文の構成要素がトピックとして左方遊離される場合に前置詞を省略することができる現象とも関連して、

---

[14] habiter la rueX という形は中尾氏も述べているように例が少ない。X 部分のない habiter la rue は成句的に「路上生活をしている」という意味になることがこのタイプの例が稀である原因かもしれない。

[15] Barbéris にもあるように、住所を述べる場合は j'*ai été* longtemps 33 rue de Zurich.のように être rue X も可能。

[16] 日本語においても日常語では移動先（例：「明日京都行くねん」「鍵ここ置いとくよ」）を表わす助詞（加えて方言によっては存在場所（例：「その本ここあるよ」）を表わす助詞）は省略されることが多い。

rue X 形式が受容されやすいと考えることができる。

また(6)(25)(27)のように他動詞を用いた発話の場所補語として rue X が用いられる場合は、時間補語が前置詞を取らずに副詞的に用いられることが多いということとも合わせて考えるべきであろう。いずれにしろ場所と時間は発話が表わす事態に本質的に内在する意味要素であり、その点において関係を表わす明示的な要素がなくとも認知し易いと言える[17]。

なお、Barbéris は rue X 形式の成立にその場所が慣れ親しんだ既知の場所(un espace familier, déjà construit)であることが条件であるとしている。中尾氏はそれは rue X の使用の決定的な要因ではないと批判しているが、筆者も同意見である。

6. まとめに換えて：rue X 構文の成立

côté タイプ、façon タイプ、あるいは色彩のニュアンスを導入する couleur の構文においては名詞が文法化を経て機能語化していた。一方、rue X 形式においては rue の部分に入る rue, boulevard, avenue, place などの名詞は名詞本来の意味を維持しており、前置詞的な機能語の働きをしているわけではない。対応する dans la rue X 形式において前置詞が表わしている方向格や場所格（位格）的な意味は、動詞の持つ構文的枠組みや発話全体の意味から rue X 形式全体に付与されているのである。それは rue, boulevard など住所に用いられる場所名詞の指示対象は、移動先や何かの存在場所、事態の生起する舞台として想定され得る特権的な位置を占めているからである。今では rue X 形式は方向格や場所格（位格）的な意味を持った rue X 構文として成立しているのである。おそらく最初は移動動詞や habiter などと共に用いられる dans la rue X 形式において、前置詞が意味的に余剰を生み出して rue X 構文が成立し、次第にその使用範囲を拡大していったと考えられる。そして一方では指示対象に関してメトニミー的な用法が発展したのである。

参考文献

Barbéris, J.-M. (1997)：“ ‘ Rue X ’ : La grammémisation à l’œuvre dans la parole”, *Faits de Langues*, no.9：165-174.

Palm, L. (1989)：“ *On va à la Mouff*? ” *Étude sur la syntaxe des noms de rues en français contemporain.* Uppsala, Acta Universitaris Upsaliensis.

中尾和美（1999）：「“ Rue X ” について」『フランス語学研究』第 33 号（日本フランス語学会）：40-51.

春木仁孝（2016）：「話し言葉における名詞の機能語化について－côté, question, façon, genre, style, histoire de, etc.－」『フランス語学の最前線』第 4 巻（ひつじ書房）：85-125.

春木仁孝（2023）：「現代フランス語における二次的な色彩を表わす表現について－couleur を中心に－」『時空と認知の言語学 XII』（大阪大学大学院人文学研究科）web 出版、大阪大学学術情報庫 OUKA gbkp_2022_ j_040.pdf：40-49.

[17] また、焦点でない場所補語の場合は役割の軽さ故に rue X 形式を受け入れやすかったとも考えられる。